

地図に のっぺいない世界が ことばの中にあつた。

詩は未知の世界を見せてくれる。
遠藤先生はそういいいます。

そもそも詩とはどんな表現だと思いますか？
リズムこそ詩の本質という人もいれば、
ことばを壊して再構築する芸術という人もいます。
流行のラブソングだって詩でしょ？
と思う人もいるでしょう。

さて、これらの考えはどれも
間違いではありません。

私自身は、詩とは世界と人の間に
新しい結びつきをつくる表現と考えています。
たとえば西脇順三郎さんの「天気」という
詩にこんな一節があります。

※「^{くつがへ}覆された宝石」のやうな朝」。
“朝”に^{くつがへ}覆された宝石”ということばが

組み合わさったことで、

今まで知らなかった朝が見えてきませんか？
そんなふうなことばで未知の世界を探っていく。

そこに詩のおもしろさがあります。
ぜひ詩のことばに触れてみてください。
あなたの世界もちよつと違って
見えるかもしれません。



※出典：『西脇順三郎詩集』那珂太郎編（岩波書店）

総合文化学科
准教授 遠藤朋之



和光3分大学

現代人間学部

小田急線鶴川駅から

表現学部

徒歩約15分

経済経営学部

<http://www.wako.ac.jp/>

ひとりを光らせる

和光大学